

令和2年度

研究紀要

成 果

《仮説1》

- ・ペアや小グループでの話し合い活動に慣れ、多様な考えを知ることで、自分の考えを広げることにつながった。
- ・低学年では、紙芝居や板書構成の工夫が内容理解に効果的だった。また、高学年では、付箋とホワイトボードの活用が、児童間での交流において有効だった。

《仮説2》

- ・自己評価では、教師が児童の学習に対する意欲を知ることができ、評価への取り組み方も向上していった。
- ・道徳ノートを書くことで、本時の中心部分が明確になった。自分の考えを書ける児童が増え、教師があとから評価しやすかった。
- ・振り返りにより、児童が「今までとこれからの自分」を比較することができた。

課 題

《仮説1》

- ・友達と考えを共有できたが、より深めるにはさらに話し合いの経験が必要である。
- ・場の工夫やツールを活用して、話し合いの機会を増やすことがさらなる相互理解につながる。

《仮説2》

- ・自己評価は、児童によってとらえ方が違い、点数の付け方が曖昧だった。
- ・自己の課題や目標を見つけるまでに至った児童は、半数程度だった。
- ・評価の仕方より、自らの変容を実感できる手立ての工夫のほうが効果的と考える。
- ・道徳ノートの「気づき」は、児童が書きにくく、再考が必要である。
- ・友達の意見を取り入れても、自分の変容にまでつなげるのは難しかった。

学校教育目標

自ら学び 豊かに関わり合い たくましく生きる児童の育成

研究主題

「対話的活動から自己を見つめ、
よりよく生きようとする児童の育成」

佐倉市立志津小学校

仮説の検証

仮説1 自己や他者との対話を中心とした活動を適切に取り入れれば、児童間での相互理解が深まり、よりよく生きようとする思いをもつことができるだろう。

手立て 《授業での取組》

- ①自分の考えを書く内容の厳選
- ②対話的活動のための工夫＝相互理解を深める手立て
- ③気付きて、自分の考えに影響が合った友達の意見を書く。
- ④振り返りで、考えの変容が深まり、これからの自分について記述する。

《全校での取組》 ①道徳コーナー掲示物「道徳の学習」「道徳の価値項目」

第1学年 あたたかいところで「はしの上のおかみ」

- くまの気持ちを考える中心発問では、小グループから全体へ、段階的に話し合いの場を広げて友達と交流をした。
- 少人数の交流では、発表に苦手意識をもつ児童も発言をすることができた。友達の考えを聞き、自分の考えを深められた。
- ワークシートとノートを活用し、中心発問に対する自分の考えや、授業の振り返りを記述し評価した。
- 自分の考えの変容に気付いたり、今後は、思いやりをもって友達と接しようと考えたりすることができた。

第2学年 ありがとうの気持ち「ありがとうはだれが言う？」

- 内容を視覚的に捉えやすいように挿絵や矢印を用いて板書を工夫し、児童が話し合いやすいようにした。
- 「ありがとう」の大切さについて理解を深めることができた。
- ワークシートとノートを併用し、発問についての自分の考えと授業を通して感じたことを記述し評価した。
- 感謝の気持ちについて自分なりに考え、「ありがとう」を伝える良さについて気付くことができた。

第3学年 真心をもって「どうしていけないのかな」

- 二人組を組んで質問する人と受け答えをする人の両方を行い、質問を受けた時にどのように感じたかを考えさせた。
- ペアの友達の意見を聞いて共感したり、新たな見方に気付いたりすることで自分の考えを深めることができた。
- 授業の最後に、本時の学習を通して、真心についてどのように考えたかを記入させ、事前アンケートとの変容を評価した。

仮説2 評価の仕方を工夫すれば、児童が自らの変容を実感し、これからの課題や目標を見付けることができるだろう。

手立て 《授業での取組》

- ①道徳ノート
- ②自分の言葉で書く場面の設定
- ③主体性を引き出す発問の工夫
- ④3点についての自己評価

第4学年 友達と助け合って「絵はがきと切手」

- 自分の意見をホワイトボードに書き、友達と意見交換しながら交流した。
- 友達の考えを見ながら自分の考えを書くことで、自己の考えを深めることができた。
- 最初と最後の発問を同じにすることで、自分の変容やこれからの課題や目標について考えた。
- 自身の変容に気付き、これからの生活の目標について考えることができた。

第5学年 広い心をもって「銀のしょく台」

- 付箋に自分の考えをいくつか書かせ、それをグループで共有する時間を取り入れた。
- 自分では思い浮かばなかった新たな考えに触れることができ、理解が深まった。
- 授業の振り返りをノートに書くときに、書く内容を焦点化して書かせた。
- 書く内容が明確となり、自分の変容に気付き、これからの目標を見付けることにつながった。

第6学年 広い心をもって「ブランコ乗りとピエロ」

- グループでの話し合いでは発問を絞り、話し合いの時間を十分確保できるようにした。
- 話し合いの時間を十分確保したことで、しっかりと話し合いができ、活発な交流をすることができた。
- ワークシートを活用し、書くことを最小限にすることで、自分の考えをしっかりとてようとした。
- 書くことを絞ったので、考える時間と話し合いの時間を十分に確保することができ、話し合いをもとに自分の意見を深めることができた。